

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

大問一 本文はやや難化。設問数には変化なし。記述量は昨年並み。
 大問二 本文はやや易化。空所補充や語句の意味説明問題が新たに出题された。記述量は減少。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『加藤周一セレクション1 科学の方法と文学の擁護』 加藤周一	『エリートと教養』 村上陽一郎
頻出度合 ・的中等	入試によく見られる作家である。	入試によく見られる作家である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2870字→約2640字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2610字→約2970字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	「学際的な方法」を説明する。 「あきらめきれない」理由を説明する。 科学的な知識の限界を説明する。 「ヴェトナム戦争」と「彼女」の例に即して「そういうもの」という指示内容を説明する。 「どのような事態」を避けるために「そういう方法」が求められるのかを説明する。 「信じる」という行為を実現するために必要なものを説明する。
		問2	論述	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	やや易	
		問5	論述	標準	
		問6	論述	やや難	
二	評論	問1	記述	標準	慣用句の辞書的な意味を答える。 教養の「胡散臭さ」の生じる原因を説明する。 15字で、「邪魔」することを説明する。 空所に接続語を埋める。 「あまつさえ」「大義」「厭わない」に着目して傍線部を説明する。 「こうした状況に異を唱えること」「罪」「功績」に着目して傍線部を説明する。 筆者の理解する「慎み」を説明する。
		問2	論述	やや易	
		問3	記述	標準	
		問4	客観	難	
		問5	論述	標準	
		問6	論述	やや難	
		問7	論述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

日頃から、色々な文章になじんでおく。
 書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。
 長大な論述に慣れておく。

国語(古文) 九州大学 教育・法・経済(経済・経営)学部 2/3

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

三は、平安時代の作り物語「狭衣物語」からの出題で、本文は読み取りにくく、設問には答えにくいものがあった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	狭衣物語
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約1200字→約1230字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	作り物語	問1	記述	標準	現代語訳
		問2	記述	標準	主語を補っての現代語訳
		問3	記述	標準	掛詞の説明
		問4	記述	やや難	状況説明問題
		問5	記述	やや難	心情説明問題
		問6	記述	標準	抜き出し問題
		問7	客観	標準	文学史問題

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文法や単語といった基本の力をしっかりと身に付け、それを踏まえた解釈が出来るように学習を重ね、その上で、設問にきちんと対応できるような記述力を身に付けること。また、さまざまなジャンルの問題にあたるようにしておこう。

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

北齊の顔之推の『顔氏家訓』からの出題。学問は若いときに始めるのがよいが、年をとってからでも諦めてはならないことを述べた文章である。問6は「文章の説明として合致しないもの」を選べという設問の意図がわかりにくく、この選択肢から一つ選ぶのは難しい。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	北齊・顔之推
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 166字→229字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	漢文	問1	客観	①やや難 ②やや難	「専利」の直訳では(ウ)「利益ばかりを考える」であるが、文脈では②「散逸」と対比であり、「利」は「鋭利(するどし)」の意味と考える。 a「固」、b「然」、c「弥」、d「不倦」の読み方を答える。 (1)読みに従って返り点をつける問題。 (2)「須早教、勿失機也。」の解釈。 漢字仮名交じりの書き下し文に改める問題。 「此並早迷而晩寤也」の解釈。「迷」「寤」の訳がポイント。 「この文章の説明として合致しないもの」を選ぶ問題。 文意が不明瞭な選択肢があるので注意。
		問2	記述	やや難	
		問3	(1)記述 (2)記述	易 標準	
		問4	記述	やや難	
		問5	記述	やや難	
		問6	客観	やや難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまなジャンルの文章にふれておこう。
- ・重要語句や構文をマスターし、書き下し文に改める問題に対応できるようにしておこう。
- ・説明問題に十分対応できるように、正確な読解力と答案作成力を養っておこう。
- ・文学史・思想史に関する基礎知識を養っておこう。